

(規則) 様式第7 (第7条関係)

政務活動費成果報告書

令和8年2月25日

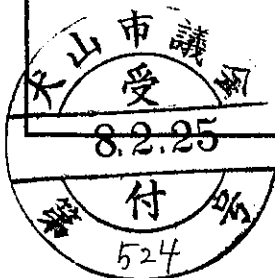
犬山市議会

議長 大沢 秀 教 様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 2月 12日(木) ~ 令和8年 2月 13日(金) (1泊 2日)
(2) 場 所	①熊本県南阿蘇村 熊本地震震災ミュージアム「KIOKU」 ②熊本県益城町 益城町役場
(3) 形 態	会派 (公明クラブ)
(4) 内 容	① 震災ミュージアム「KIOKU」を視察し、2016年に発生した熊本地震の震災の記憶継承と防災教育の取り組みについて学んだ。 本施設は、熊本地震で被災した益城町を中心に、被害の実態や復興の歩みを後世に伝えるため整備された施設である。館内には、地震発生時の状況を再現した映像の展示や、被災した車の実物資料、住民の証言記録などが体系的に配置され、来館者が熊本地震の震災の恐ろしさと教訓を深く体験、理解できる構成となっていた。 続いて視察した東海大学阿蘇キャンパスでは、熊本地震の被害を後世に伝えるため、校舎や地盤の損壊箇所が震災遺構として保存されていた。今回の視察では、崩落した校舎の基礎部分や大きく変形した地盤の状況を確認し、地震の破壊力などを実感した。これらの遺構は、震災の教訓を学ぶ教育資源として活用されており、大学が防災減災研究の拠点として果たす役割の大きさを示していた。
(5) 成果・提言	今回の視察を通じ、KIOKUの語り部活動やデジタル展示、東海大学の震災遺構を活用した教育は、災害を自分事として捉える効果的な手法と考える。当市においても、住民参加型の防災教育の充実、学校との協働による学習プログラムの開発、市内で起こった過去の災害の記録を残す仕組みづくりを進めるべきである。これらの取り組みは、地域の防災力向上に寄与すると考える。



(規則) 様式第7 (第7条関係)

政務活動費成果報告書

令和8年2月25日

犬山市議会

議長 大沢秀教 様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 2月 12日(木) ~ 令和8年 2月 13日(金) (1泊2日)
(2) 場 所	①熊本県南阿蘇村 熊本地震震災ミュージアム「KIOKU」 ②熊本県益城町 益城町役場
(3) 形 態	会派 (公明クラブ)
(4) 内 容	②2月13日(金)熊本県益城町役場「震災被害・被災者支援について」 益城町は、熊本県のほぼ中央から北よりの熊本市に隣接し、交通の 利便性にすぐれた町である。震災前までは人口は増加傾向であった。 熊本地震の特徴として、①28時間以内に2度の震度7を経験した ②度重なる余震、震度6強2回、震度6弱3回、③震源地はいずれ も町外であったが震度7を2回経験したのは益城町だけであった。 益城町の被害状況として、直接死が20名、震災関連死が25名、 重傷者は135名であった。住宅の被害は、全壊3,026棟を含む、 10,584棟で、これは町全体の約98%が被災したことになる。 このような状況の中、最大避難者数は、当時の人口のほぼ全てに近い 16,050人にのぼり、10の避難所でそれぞれ避難されたとあった。 町有施設全58施設中、48施設が被災するなど、甚大な被害が発生し 町役場庁舎も被災し、機能不全に陥り、災害対策本部は外に設置さ れたとあった。
(5) 成 果 ・ 提 言	今回の視察の中で、熊本地震の震災直後の課題を聴くことができた。 ① 役場本庁舎自体の被災や、職員参集状況の未把握などが初期対応 の遅れに繋がってしまった。②ほぼ全ての住民が避難者になったた め、避難所は大混乱した等あった。犬山市としても益城町など、 他市町で起こったことを学び、活かしていくことが今後の市の防災 減災に繋がっていくと考える。